

300年の歴史をめぐる旅

ふるさとは日本の野山

サクラソウは春先に可愛らしい花を咲かせる多年生草本です。花卉の形が桜の花に似ていることからこの名前がつけました。国内では北海道から九州までの湿った草原や落葉樹林に生育しており、身近な春の植物として親しまれています。

サクラソウ、江戸の園芸文化に出会う

野山に生えているサクラソウの花をよくみると、個体によって花卉の色や模様、形が少しずつ違っていることが分かります。江戸時代になると、これら野山のサクラソウからたくさんの園芸品種が作り出されるようになりました。江戸時代の粋人たちは、野生のサクラソウの多様なバリエーションに注目し、さらに交配することで様々な色や形をもつ園芸品種を作り出していったのです。

サクラソウ園芸品種と研究成果を紹介

筑波大学では、サクラソウ園芸品種を貴重な遺伝資源として保存しています。

今回のさくらそう展では、筑波大学のコレクションの中から選りすぐりの品種を展示します。

さらに、画像解析やDNA分析などの最新の技術を用いて、

「園芸品種と野生の花はどこが違うのか？」

「品種はどこ地域の自生地から作り出されてきたのか？」

「野生のサクラソウは自然の中でどうやって子孫を残しているのか？」を明らかにした研究成果を紹介します。

品種が作り出された江戸の昔から現在に至る300年の間に、野生のサクラソウは急速に姿を消していきました。本さくらそう展では、サクラソウ自生地の現状や衰退の原因、保全のための取り組みについても紹介します。



訪花するトラマルハナバチの女王

セミナー「江戸の花 桜草」

2006年4月29日(土)13:00~14:00
さくらそう会 世話人代表

鳥居 恒夫 (とりいつねお)

サクラソウ園芸の第一人者
植物・園芸研究家
「さくらそう」等著書多数

午後2時からは鳥居先生の解説を聞きながら園芸品種を鑑賞します。



野生のサクラソウの花の多様な色のかたち

ギャラリートーク

4月22日(土)14:00~15:00

筑波大学助教授

大澤 良 (おおさわ りょう)

研究成果を説明しながら
さくらそう展をご案内します。



■交通案内

- つくばエクスプレス「つくば駅」下車 (つくば駅4番出口) ●つくばセンター乗り換え (秋葉原駅から約45分)
- つくばセンターから「テクノパーク桜循環」で「筑波実験植物園前」下車徒歩3分
- つくばセンターから「筑波大学循環」左回りで「天久保二丁目」下車徒歩8分
- 常磐自動車道・桜土浦I.Cから北へ約8km。

■入園案内

開園時間

9時~16時30分 (入園は16時まで)

入場料

一般・大学生 300円 児童・生徒 無料
団体割引 (20名以上)
一般・大学生 200円

国立科学博物館・筑波実験植物園
つくば植物園

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 TEL.029-851-5159 (代表)